

会長メッセージ

「90周年大会を成功させよう」



総本部長 古田 哲壮

詩吟を楽しんでいますか。親んでいますか。長く詩吟と関わるなか、楽しんでいないなあという時もありました。ずいぶん前、詩吟に夢中になったときがありました。コンクールを目指し、出勤する前に、声を出し、上手な吟者のテープを聞き、思いきり吟じた時期もありました。コンクールの結果はいい時もあれば、今ひとつの時もありました。残念な結果であっても受け入れざるを得ないということでした。ある先生から10回舞台に立っても納得できたのは一回か二回だと言われ、そういうものだと思っていました。最近の高齢吟者の活躍には頭が下がります。

競吟大会に出なくなつて10年以上になりますが、それでも吟詠を発表する機会もありました。そのときになって、声の衰えに敏感になりました。ところが、先日、新聞にこんな記事が出ていました。新型コロナウイルス禍を経て、「声が出てく」い「声がかれる」という声の不調を訴える人が増えている。その理由として、「テレワークの増加や会食の減少で人としてやる機会が減り、声を出すための『声筋』が衰えていることが要因」と指摘。声筋とは声帯付近の筋肉群の総称で、使わ

ないとトラブルにつながると警鐘されています。その改善法として「風呂カラオケ」がお勧めであった。風呂は湿度が高く、喉には理想的な環境とのことであった。我々詩吟に携わるものとして興味のある話であり、詩吟の練習にもヒントを与えてくれるものではないかと思ひ紹介させていただきました。

最近の若者の現象として、スマホなど画面で相手とつながるものの、声を出して話をするのが減っているように思います。果たして、無言でパソコンの入力する音だけ聞こえる職場もかなりあるのではないか。また、ひとり暮らしの高齢者も話し相手が少なく人と話をしない日があるのではと思うのです。そんな状況を捉え、詩吟の効用を訴えていければとも思うところです。

総本部は創立90周年記念全国吟道大会が間近に迫ってまいりました。今回の記念大会のテーマは『未来につなぐ「和のこころ」』です。関西地区大会をはじめ4地区の記念大会を進めてまいります。練習で鍛えた吟声を会場に響かせるよう期待しています。今回の記念大会も会員の皆様方の絶大なご支援とご協力が欠かせません。よろしくお願い申し上げます。